

令和3年度（第1期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・外国人留学生特別選抜）

入学試験問題（小論文）

注 意

- 1 試験時間は120分。
- 2 問題紙は 4 枚(表紙を除く)、解答紙は 4 枚。
- 3 設問Ⅰ、設問Ⅱの解答はそれぞれ別の用紙に記入すること。

設問 I

下の文章を読んで、次の問いに日本語で答えなさい。

- (1) 文章を 200 字以上、250 字以内で要約しなさい。
- (2) 大学ランキングのメリットとデメリットに関して、あなたの考えを述べなさい。

ここに下記文献の抜粋が入ります。

アキ・ロバーツ、竹内洋 著 『アメリカの大学の裏側－「世界最高水準」は危機にあるのか?』 朝日新書、2017年 25－7頁より一部改変

(アキ・ロバーツ、竹内洋 著 『アメリカの大学の裏側 —— 「世界最高水準」は危機にあるのか?』朝日新書、2017年、25-27頁より一部改変)

設問Ⅱ

下の文章を読み、次の問いに日本語で答えなさい。

(1) 下線部①で言及された地域における塩分摂取量は、具体的に何g程度と考えられるか。考え方を含めて、わかりやすく述べなさい。

(2) 下線部②から、日本全体も秋田県だけでも、女性より男性の塩分摂取量が多いことがわかる。その理由を想像し、400字程度で説明しなさい。

(3) 秋田県の職員が下線部③のように語ったのはなぜだろうか。本文中で紹介された土門昭夫さんの例から示唆されることを、400字程度で書きなさい。

ここに下記文献の抜粋が入ります。

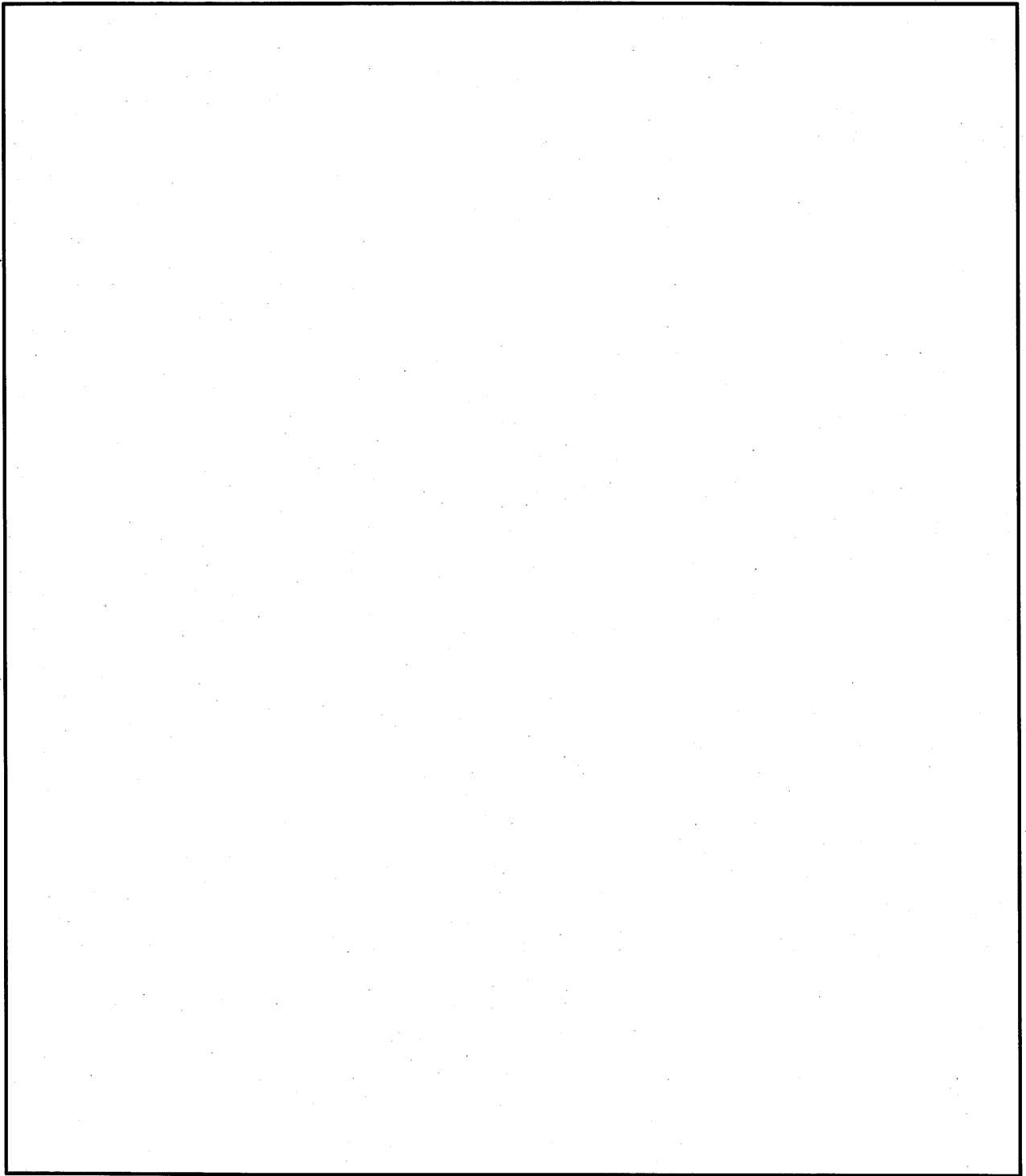
NHKスペシャル取材班『健康格差』講談社、2017年、74-81頁、より一部改変

また、次の部分について下線を付してあります。

下線部① 74頁の5行目～6行目「世界には…あるという。」

下線部② 74頁の12行目～15行目「男性は…10.2gである。」

下線部③ 80頁の4行目～5行目「日々の食生活を…あるのかなと……」



(NHK スペシャル取材班『健康格差』, 講談社, 2017. 一部改変)

(註) 原文ではポスターの文言は秋田弁で書かれているが、ここでは標準語に改めてある。

令和3年度 (第1期試験)

東北大学大学院教育学研究科博士課程

(前期課程・一般選抜および社会人特別選抜および
外国人留学生特別選抜)

臨床心理学コース

入学試験問題 (専門科目)

注 意

1. 試験時間は120分。
2. 問題紙は1枚(表紙を除く)、解答紙は5枚。
3. 解答は所定の用紙に記すこと(設問Ⅰ～設問Ⅲの解答は各1枚の解答紙を用いて、設問Ⅳの解答は2枚の解答紙を用いて、(1)～(4)を1枚目、(5)～(8)を2枚目に記入すること)。

……………臨床心理学コース……………

【設問Ⅰ】 障害のある人への職場における「合理的配慮」の考え方を述べなさい。
また、職場では具体的にどのような合理的配慮ができるか、「精神障害」
および「発達障害」について各々の例をあげて説明しなさい。

(20点)

【設問Ⅱ】 COVID-19感染拡大を受け、心理面接が、対面ではなくオンラインで
実施される機会が増加している。オンラインで心理面接を実施する際
に、留意すべき点について、3つあげて述べなさい。

(20点)

【設問Ⅲ】 薬物依存者の心理社会的問題や心理支援に関する重要な観点について
知るところを述べなさい。

(20点)

【設問Ⅳ】 以下の用語をそれぞれ5行程度で説明しなさい。

(各5点)

- (1) ストレスチェック制度
- (2) 措置入院
- (3) ハロー効果
- (4) 心理社会的モラトリアム
- (5) チーム学校
- (6) 境界性パーソナリティ障害
- (7) テストバッテリー
- (8) 第1種の過誤

(以下余白)